

東京の曾孫へ

佐藤 祐吉 福島県福島市 八十三歳

悠人、元気してっか？

昨日な、おめえの誕生祝に、向いの館山公園さ、記念樹植えて来たぞ。

二米ばかりの小せえ江戸彼岸桜だが、冬の寒さに負けねえで、来春にや花見れっぺ。

悠人が生まれたときは、カアチャンの体の具合が悪くて、六ヶ月での早産だった。

保育器の中のおめえは、手の平にスッポリ入るパンダの赤チャンみてえだった。

んでも「オギャーッ」と元気な産声をあげたんで皆「ホッ」とした。しかも悠々と小さい欠伸をしていたっけ。

それで名を「悠人」曾爺のオレの「ゆう」に絆を感じさせる名に「ホロツ」としたよ。

桜の回りにはカラシ菜の種を播いてきた。カラシ菜は猪が嫌うから入って来ねえのをオラ気付いたんだ。花の里には猪に遠慮してもらって、山の動物と人間が住み分けて、共存出来る世の中にしてえと思っただけな。

菜の花と桜の花のコントラストは見事だぞ。

カアチャンが時々送ってくるスマホの中の悠人は見るたんび、でっかくなって家中みんな大喜びだ。

春になったら、福島さ来い。みんなで館山さ登って、満開の花に囲まれ「緑の風」に吹かれながら、おめえが「よちよち」歩く姿が目に浮かぶぜ。

そしたら悠人は「風の子」になるぞ。